

レガシーシステムモダン化委員会

レガシーシステムの撤廃に向けた 富士通の取り組み紹介

2024年12月12日

富士通株式会社

FUJITSU

お客様のレガシーシステム資産の移行推進に向けた取り組み

富士通はお客様のレガシーシステム資産の移行推進を注力分野として取り組む

- ① 全社推進活動と専門組織発足（中期事業計画、全社プロジェクト活動、CoE組織）
- ② モダナイゼーション推進商材の整備、お客様アカウントアプローチ、モダナイリソース確保
- ③ 市場へのモダナイの啓蒙活動（積極的プロモーション、Road to 3X、啓蒙書籍の発刊）

要点 1： ベンダーサイドも不退転の覚悟で、経営・現場部門一丸となり、全身全霊で推進中

要点 2： お客様においても一定の投資が必要となる（金銭面、リソース面、時間面）

- ・ 大手お客様は経営課題と認識いただきつつ慎重に推進中
- ・ 中堅・中小企業のお客様は経営制約条件あり（モダナイファイナンススキームを提供）

要点 3： 富士通におけるリソース確保の課題感と対応策

- ・ 関係各社との連携
- ・ モダナイゼーションマイスター人員の確保
- ・ 生成AI活用を含むモダナイゼーションソリューションを順次整備・提供

お客様におけるレガシーシステム移行実践事例と推進上の課題 FUJITSU

企業規模別の課題感

要点 1 : 大企業では稼働資産が巨大であり、段階的かつ長期間での移行計画傾向
・モダナイゼーション途中での計画変更リスクへの対応

要点 2 : 中堅・中小企業では経営資源リソース（人・物・金・情報）に課題あり
・従前からお客様での内製化が多く、キーマン退職やブラックボックス化が深刻

要点 3 : 企業規模を問わず国からの強力なご支援を要望する声

レガシーシステムモダン化に向けた市場へのメッセージ

富士通からのメッセージ

激変環境変化にて維持・成長を続けるには経営に資する情報システムが不可欠

日本の国益・経済成長・競争力確保には、各企業の持続的な成長・発展が連動

今こそ、勇気をもって取り組んでいく必要あり

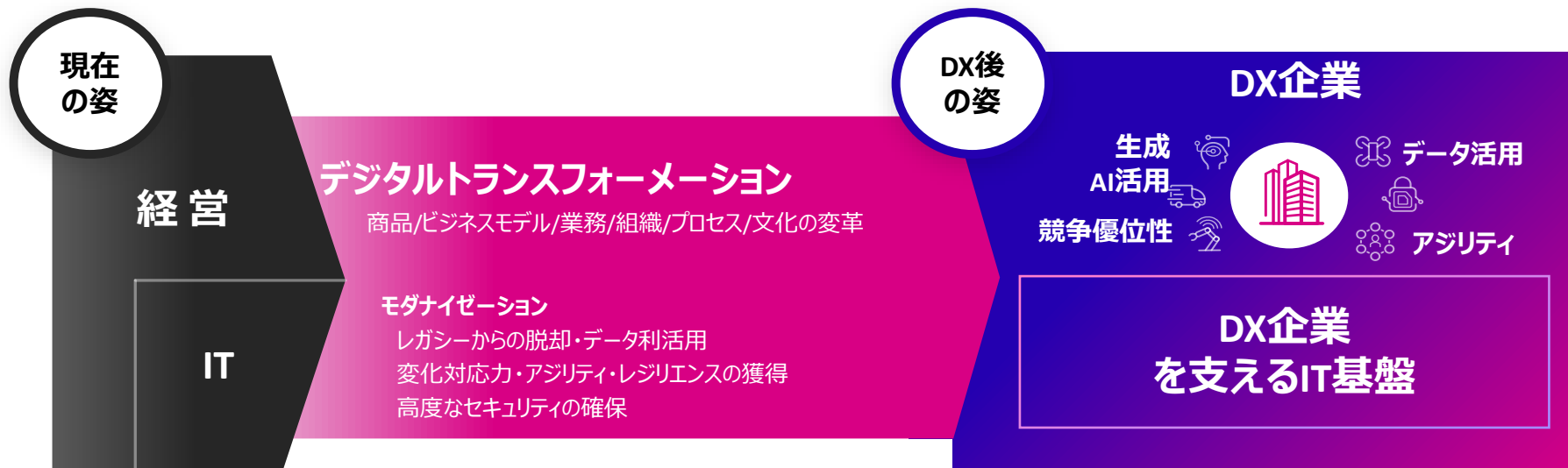
Road to 3X

Modernization

富士通の豊かな知見を束ねた、モダナイゼーションが示す道
DX SX GXまで伴走します。

Appendix : 「攻めのモダナイゼーション」へ富士通の取り組み事例

- デジタルトランスフォーメーションは、経営変革とIT変革が両輪で推進される
- ITは、新システム開発とモダナイゼーションが相互に連携し推進される



富士通では「攻めのモダナイゼーション」と銘打ち、レガシーシステムの撤廃だけにとどまらず、データ利活用やAIによるデータドリブン経営やデジタル化で経営に資するITへの変革を提言。



4,000+

ITガバナンス不在

個別最適乱立

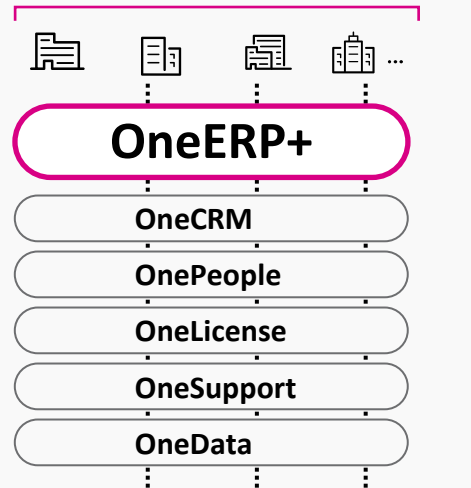
変革への挑戦と頓挫

富士通モダナイ実践事例：モダナイゼーションの実行 FUJITSU

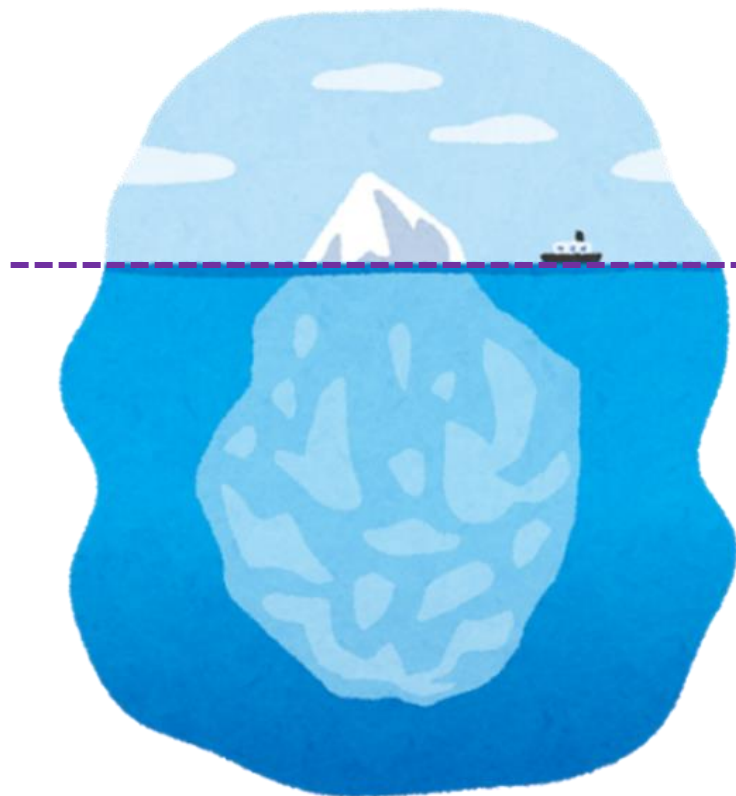
- 「経営＋IT」主導でモダナイゼーションを遂行（4,000→1,000システム）



海外リージョン・グループ会社横断



ITプロジェクトではなく、経営プロジェクト＝企業カルチャー変革への挑戦



お客様に提供する オファリングメニュー

UVNACE

コンサル
ティング

モダナイ
ゼーション

各種IT
サービス

HW/MW
製品群

サービスソリューションを支える テクノロジーと取り組み

エンジニア
集約・育成

生成AI・自動化
技術実装

コンサルティング
ビジネス強化

コスト低減

次期アーキ
テクチャ

ベンダー
アライアンス

ナレッジ
エンジニアリング

パートナー
エコシステム

モダナイゼーションマイスター

- モダナイゼーションに関する高度な技能や専門的な知識、豊富な経験を持つ専門集団がお客様のモダナイゼーションをサポート

- 社内外より人材を募集、面談/審査を経て採用
- 60歳以上の人材は再雇用にて定年前給与処遇で採用
- レガシー＋最新技術動向への対応力を強化・育成

その他のエンジニアの集約・育成への施策

- ✓ モダナイゼーション・エンジニアバンク制度
 - ✓ オフショア・レガシーエンジニア育成
- 等



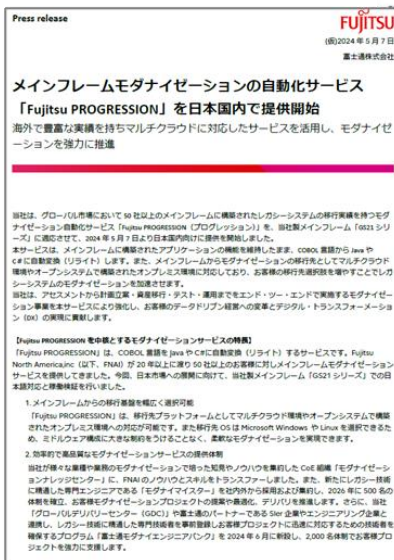
モダナイゼーション自動化 技術実装

リライト（リファクタリング）自動化サービスのリリース

AWS Blu Age協業発表 ~24/3/18~



PROGRESSION発表 ~24/5/7~



生成AIを活用したモダナイゼーションSI支援機能について、整備やPoCを実践中

Uvance Wayfinders

テクノロジーと長年培ってきた様々な業種の知見を融合することで、お客様と共に社会全体の「知のエコ・システム」を創出し、より良い未来を創造するためのパートナーとなる強い想いを込めています。



ビジネス コンサルティング

25年度3,000人

社会を俯瞰する広い視野で解決すべき課題を捉え、机上の空論に終わらない事業変革を実現する



テクノロジー コンサルティング

25年度7,000人

データとテクノロジーを武器に、オフリングの活用実践知を組合せてビジネスアジリティの向上を実現する

「ビジネス成長×IT高度化」を実現する未来戦略

どのように成長させるのか？

経営に貢献する情報システム

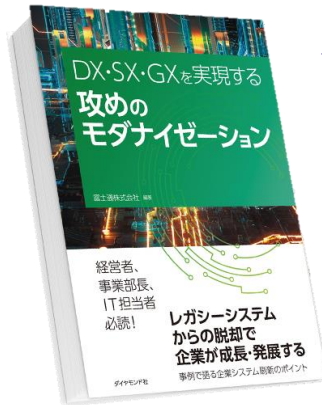
グランドデザインとして構想

- 仮説した将来像からバックキャスト思考で段階的なロードマップを描く
- 経営ビジョン・経営戦略に基づき中長期でのビジネスと情報システムの整合性を図る
- DX実現に向けたモダナイゼーションをITアーキテクチャーの設計・実行計画を策定する

考え方のベストプラクティス

ガバナンスモデル の確立	▶ グランドデザインを検討するエンタープライズの範囲 ▶ エンタープライズ内のステークホルダーと主要課題や関心事 ▶ 経営者が考えるビジネスの方向性、命題、戦略、ゴール、ドライバー ▶ 現状のイノベーション推進や組織運営を支援するチームや取り組み ▶ 業務遂行能力やスキルの上への組織的な取り組み ▶ エンタープライズの状態やメンバーに見える運営実態
プリンシプル の策定	▶ ビジネスプリンシプル ▶ データプリンシプル ▶ アプリケーションプリンシプル ▶ テクノロジープリンシプル
アーキテクチャー ビジョンの共有	▶ ステークホルダーの関心事や目的 ▶ 組織のビジネスゴール
ターゲットの設定	▶ ビジネスシナリオ ▶ バリュープロポジション ▶ KPI

出典：The Open Group「The TOGAF Standard version 9.2」



DX・SX・GXを実現する

攻めのモダナイゼーション

- 編著：富士通株式会社
- 発行：2024年10月1日
- 出版：ダイヤモンド社

経営者向けの書籍を通じて、
モダナイゼーション実践啓蒙
(経済産業省/IPAのご提言を
活用し、強く訴求しました)

Thank you

